
fose2006.sty 使用サンプル

An example of use for fose2006.sty

磯崎 秀樹* 徳川 家康†

あらまし これは、fose2006.sty スタイルファイルを利用し、 \LaTeX でフォーマットした FOSE2006 の論文サンプルです。

- 論本文が和文の場合、和文・英文のいずれかでアブストラクトを書いて下さい。両方併記することもできます。英文アブストラクトを書く場合は eabstract 環境 ($\begin{eabstract}$ ~ $\end{eabstract}$) を使って下さい。
- 本文が英文の場合、和文タイトル・和文著者名・和文アブストラクトを併記する必要はありません。fose2006-e.sty を利用して下さい。

Summary. This document has been prepared as a sample for typesetting FOSE2006 papers using the FOSE2006 \LaTeX style file.

1 ワークショップの目的

情報技術の普及がソフトウェアの適用範囲をますます広げていきま、ソフトウェアを社会基盤となる知的資産として活用するため、ソフトウェア工学はさらに格段の進歩をとげなければなりません。FOSEはこの挑戦に向けてさまざまな基礎技術を確立することをめざし、研究者・技術者の議論の場を提供するものです。

2 ワークショップ開催概要

FOSE2006 [6] は以下の要領で開催する予定です。

日程 2006年11月16日(木)~18日(土)

開催場所 ウェルサンピア立山

〒930-1451 富山県富山市粟巣野

TEL: 076-481-1126, FAX: 076-481-1255

http://www.kjp.or.jp/hp_44/

主催 日本ソフトウェア科学会 ソフトウェア工学の基礎研究会

3 論文募集

3.1 一般講演論文の募集と応募方法

ソフトウェア工学の基礎技術に関連する論文を募集します。基礎技術の応用方策や、実践からの基礎技術の抽出を提示するものも含まれます。応募された論文はプログラム委員による査読により採否を決定します。なお、本ワークショップの予稿集は近代科学社よりレクチャーノート/ソフトウェア学シリーズ [1-5] の書籍として出版される予定です。

専用の \LaTeX スタイルファイルを使用し、フルペーパー (8~10 ページ) またはショートペーパー (6 ページ以下) として作成して下さい。Word など、 \LaTeX 以外で作成した PDF ファイルによる投稿も受け付けます。ただし、こちらでは \LaTeX 以外のスタイルは提供しませんので、お手数ですが、サンプルファイルを参考に FOSE の \TeX スタイルと同じ書式で論文を作成してください。

作成された論文原稿は PDF ファイルにして fose2006-chair_AT_media.kyoto-

*Hideki Isozaki, NTT 基礎研究所

†Ieyasu Tokugawa, 江戸幕府

u.ac.jp 宛¹に電子メールで応募して下さい。なお、電子メール本文(プレインテキスト)には以下の情報を記載して下さい。

- 著者代表の氏名, 所属とその所在地,
- 著者代表の電子メールアドレス, 電話番号, ファックス番号
- フルペーパー・ショートペーパーの別.

3.2 主要スケジュール

講演論文締切: 2006年6月16日(金)

審査結果通知: 2006年8月7日(月)

印刷原稿締切: 2006年9月8日(金)

4 書式に関して

4.1 ヘッダとフッタ

奇数ページのヘッダ(ただしカバーページを除く)には英語論文タイトル(長い場合は省略タイトル可)が来ます。L^AT_EX を使う場合には、省略タイトルを\journalhead{The Title}のように指定します。偶数ページのヘッダには「FOSE2006」が来ます。フッタは空となるように設定してください。

4.2 箇条書き

- 項目 1
- 項目 2
 - 項目 2-1
 - 項目 2-2
- 項目 3
 1. 項目 1 (項番付き)
 2. 項目 2 (項番付き)
 3. 項目 3 (項番付き)
 - (a) 項目 3-1 (項番付き)
 - (b) 項目 3-2 (項番付き)

4.3 表と図

表 1 表の例

FOSE2001	ソフトウェア工学の基礎 XIII	杉山 安洋、藤田ハミド 編
FOSE2002	ソフトウェア工学の基礎 IX	井上 克郎 編
FOSE2003	ソフトウェア工学の基礎 X	鯉坂 恒夫、満田 成紀 編
FOSE2004	ソフトウェア工学の基礎 XI	野呂 昌満、山本 晋一郎 編
FOSE2005	ソフトウェア工学の基礎 XII	権藤 克彦、小林 隆志 編



図 1 図の例 (FOSE2005 のロゴを使わせてもらっております)

¹ _AT_ は@に直してください

謝辞 本フォーマットを作成して頂いた方々に感謝します。また、 $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}2_{\text{e}}$ 用のフォーマットを作成して頂ける方がいらっしゃいましたら、プログラム委員長までご連絡ください。

参考文献

- [1] 杉山安洋, 藤田ハミド 編: ソフトウェア工学の基礎 XIII, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2001*, 近代科学社, 2001.
- [2] 井上克郎 編: ソフトウェア工学の基礎 IX, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2002*, 近代科学社, 2002.
- [3] 鯉坂恒夫, 満田成紀 編: ソフトウェア工学の基礎 X, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2003*, 近代科学社, 2003.
- [4] 野呂 昌満, 山本 晋一郎 編: ソフトウェア工学の基礎 XI, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2004*, 近代科学社, 2004.
- [5] 権藤 克彦, 小林 隆志 編: ソフトウェア工学の基礎 XII, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2005*, 近代科学社, 2005.
- [6] 第 13 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ, <http://fose2006.media.kyoto-u.ac.jp/>, 2006.